



## ぜんざいが ゆんゆんゆんと

——おふたりはよくお会いになる  
のでしょうか？

萩尾 マンガ家って引きこもってしま  
うので、そうでもないんですけども  
ども。

山岸 去年珍しく私がパーティを開  
いたときいらしてくださって。

萩尾 すごくきれいなパーティ会  
場で。たらふく食べて帰りました  
(笑)。

山岸 その前の萩尾先生の40周年  
パーティは行けなくてすみません  
でした。

萩尾 でも、わざわざ、行けなかつ  
たからって、あとでお土産を送って  
頂いて。おいしいものをありがと  
うございます(笑)。

——具体的には何でしょうか？

萩尾 チョコレートです。いつもお  
いしいチョコレートをくださるん  
ですよ。

山岸 いえい。

萩尾 でも山岸先生はミルクがダ

メでしょう……？ チョコレートは  
大丈夫なんですか？

山岸 それが変なんです。日本のミ  
ルクチョコレートはビターより好  
き。なのに海外のミルクチョコレ  
トはダメ。ミルクの度合いが違っ  
て、海外のは濃いんでしょうね。

萩尾 チョコレート以外の甘いも  
のは、相変わらず苦手なんですよ  
ね？

山岸 私が私、甘いものを食べら  
れるようになったんです。50になる  
かならないかで突然に。

一同 ええっ？

山岸 昔は一切ダメだったんです  
よ……。

——「恐怖の甘い物一家」というエ  
ッセイで、甘党一家に生まれた悲劇  
を描かれていますね。

山岸 そう。それがあの日、甘味屋  
さんの目の前を通つたら、サンブル  
のお汁粉があつてですね、それがゆ

んゆんゆんと呼ぶんです(笑)。  
「これ食べられる」と思つてお店に  
飛びこんだら、そのときはダメだつ

たんです。お店の人に、「すみませ  
ん」と出てきて。それからさらに数

カ月経つたら、やつぱりどこかで、  
ぜんざいがゆんゆんゆんと(笑)。  
そしてまた飛びこんだら、今度は食  
べることができました。

萩尾 なんででしょうねえ？

山岸 いまのお汁粉は昔より甘さ  
控えめですよ。でも、最初に食べ  
られると思つたお店のは昔ながら  
の濃い味だったんです。2度目に入  
つたところは、晒し鮎のさらつとし  
たのでした。そこから先食べられる  
ようになりました。いまや甘党にな  
つております。

——いまは濃いほうも平気には？

山岸 あ、濃いのは相変わらずダ  
メ。食べられはしますが、一口入れ  
るとお茶を飲まずにはいられない。

——じゃあ、やつぱり当世風のさつ  
ぱり系の。

山岸 そうですね。……なんて私の  
嗜好性なんかどうでもいいんです  
(笑)。

——いえいえすごく気になります。  
萩尾 バレエはまだやつてらっし  
やるんですか？

山岸 まだやつてます、お恥すかし  
ながら。それで悲惨な目に毎回遭つ

てるんですね。今日は股関節が痛い  
(笑)。

萩尾 一度発表会に行きたいと思  
っているんですけど、なかなか教え  
て頂けなくて。

山岸 もうほんつとに見せられま  
せん！見られたら死にます。「今日  
萩尾さんが来ます」と言われた  
ら、私は会場から逃げます。

萩尾 じゃあこっそり見て、その年  
の賞状に「行きました」って書き  
ます(笑)。

## 「パエトーン」の警鐘

——最近お読みになつたお互いの  
作品で印象に残っているのは？

山岸 私は「春の小川」が……泣き  
ました。もう何年振りだろ。ノンフ  
イクションで子どもが病気で死ん



『春の小川』  
小学館フラワーズコミック  
2011年

※対談中に登場する作品については、128ページからの作品年表をご覧ください。

でしまつとか、そういう体験記はどうしても読んだら泣いてしまつというのがありますよね。そうではなく、全くのフィクションで泣いてしまつたというのは、もう何年振りだろうか、と。

萩尾 山岸さんにそう言われたら……。

山岸 いやもうほんとに。

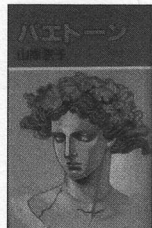
萩尾 私は、「テレシシコラ」が終わつて、ちよつとがっかりしていたところに「ケサラン・バサラン」が始まつて。楽しみに読んでます。

山岸 すみません、また変なのを始めちゃつて。

萩尾 以前お家を買われたときの苦労話をちらつと聞いたことがあるので、それがこれから始まるのかなと。

山岸 もう、身の恥をいっぱい。でももう決めたんです、笑われてもいやと思つて、一切描いちゃおつと。萩尾 あおり文句がいいですよ。」「これから家を建てたい人は読まないでください！」つて。

——あの「警告」つて文字、どきつとします。



「バエトーン」  
角川書店・あすかコミックス  
1988年（現在は角川出版「夏の実話」に収録）

山岸 ひどいでしょ。すみません（笑）。

萩尾 あとは、福島原発事件のいま、話題にするなら「バエトーン」ですよ。何年の作品でしたっけ？

山岸 これは23年前、88年に発表しているんです。チエルノプイリの事故は86年なんですけど。その少しあとに。

——いま「新作です」つて言われてもおかしくない内容ですよ。

山岸 それぐらい原発の状況がつたたく何も変わつてないつてことですよ。

萩尾 そうですよ。作中、山岸さんがコップを持って「一生このコップを落とさないつて言える？」つて。もしかしたらあるかもしれない失敗を、どうして想定しなくて平気なのかなつて……。

——それにしても「バエトーン」は、すごく先見の明のある、いまでも力のある問題作です。

山岸 いまこんなさなかにネットで公開してしまつて、かえつてみんなの不安をあおるだけじゃないかなと、ものすごく気になっているんですよ。

萩尾 いやいや、十分不安なんだから。

山岸 そうですかね。

萩尾 情報が欲しい状態なんですから。むしろ警鐘として鳴らしているものが、やつと役に立っている。ああなるほど、事故つて起こるんだと、どかどか腑に落ちているという状態ですよ。

山岸 やつぱりチエルノプイリは対岸の火事だつたんですかね。

萩尾 そう、対岸の火事だつたのねえ、確かに。遠かつたんですねえ、当時は……。

山岸 だつてあのあともロシアはパンパン原発開発してるでしょう？あれだけの目に遭つていながら。

——怖いんですね……。

山岸 本当に原発が大変なことになつたら逃げるしかない。でも私、車が運転できないんですよ。じゃあ歩く？自転車？でも自転車つて身体むき身だからね。だけど、最終的にはバイクとか自転車ですね。車はまず絶対、渋滞で動けなくなるから。うん、完全防備して自転車（笑）。

萩尾 レインコートかなにか着て。山岸 でも、私は自転車にも乗れないんですよ（笑）。

萩尾 私は自転車には乗れるけど、猫が7匹いるから。

山岸 7匹になつてるんですか！私、1匹の猫ちゃんですら大変と思つているのに。実は今日誕生日で18歳なんですけど、若くないので、飛行機で荷物に入れられちゃうと死んでしまふ。だからこの子を連れて飛行機には乗れないし、あるとしたら新幹線かなつて。1匹のために動けないのに7匹では、とても。

萩尾 だから誰か運転できる編集さんにパンを運転してもらつて……。

山岸 なるほど、そうですね。毎日毎日「終息しますように」とほんと

に折るような気持ちです。

萩尾 (3月) 11日に地震が起こったから、大体1週間単位で何か起きてるんですよ……。

山岸 神戸の地震のときは1週間で収まったんだそうですね。今回は余震長いですよ……。そうだ、11日の地震はどうでしたか。おうちはだいぶ揺れました？

萩尾 震度3でゆらゆらゆらゆら。5、6分続きましたね。そちらは？

山岸 私のところはけっこう揺れたんですけど、面白いことに、免震構造にしているものだから、回るんです。すべての物が回るけど、ひとつも落ちないんです。

一同 へえ！

山岸 でもガツシャンガツシャン動くんですよ。アシスタントさんたちはすべてキャーと外へ出ました。私はこの家の中において、この机の方が丈夫、とか言ってたんですけど(笑)。それで、私がひとりだけ置いて逃げるわけにいかないのひどりのアシさんが戻ってきて私の腕を掴んで外へ(笑)。でも外に出てみたら、自分の家が、ガツシャンガツ

シャン揺れてるのが、わかった。

——でも物は全然落ちも壊れもしなかったのですか？

山岸 全然。たいしたものだなと思いました。でも、作った人たちは最初、震度4くらいまでは揺れもしないと言ってたんですけど、震度1でも揺れる。どこが免震なんだとはじめは怒っていたんですけど。

——東京は震度5強でしたよね。それで何も落ちなかったのはすごい。

萩尾 こちらは震度3だったんですけど、随分続くのでちよつと庭に出たんですけど、裸足で。そしたら芝生がね、足の下で波打っているのがわかるの。

一同 ええー！

山岸 神戸地震のすぐあとに、桐島洋子さん(※1)が、東洋のすぐく当たるという占いの方にお話を聞いた。次に水の戸が開きます」と言っていたというんです。水の戸というのは神戸だ、水の戸っていったら何だろう。水戸かなって私なんかは思ったんですけど、桐島さんが言うには「江戸」が「さんずい」の「こう」

で水の戸だから次に来るのは東京じゃないかと言って。でも今回、水の戸って津波だったのかなあって……。まあ予言者の言葉なんて、あとでいくらでも解釈できるんですけど。

一同 はあ。

山岸 この間の仕事が12日に終わったのですが、後日、自分の机を片付けていたら、3月11日の新聞が出てきたんですよ。このときまでは幸せだったんだよ。朝刊のときまでは幸せだったのにつて。そのあとはほとんど戦時下の気分。

萩尾 地震疲れと原発疲れで……。この本に今日の話が載る頃には、色々済んでいるといいですね。

## 出会の頃

——おふたりが最初にお会いになったのはいつなんでしょうか？

山岸 デビューしてすぐの年ですね。最初はささやななえこ(※2)さんと大泉(※3)を訪ねたんです。私が迷ったのがその次、ひとりで行ったときだったのを覚えてい

る。たどり着けなくて。

萩尾 山岸さんもささやさんも北海道出身ですよ。それで最初一緒にいらした。

山岸 そう、私がささやさんより先にデビューしてて、北海道に一時戻ったときに、編集部を通して知り合ったんです。私、ささやさんの作品を手伝った記憶がある。

萩尾 ささやさん、大泉に住んでいたんですよ。なんか1回来て、半年くらい住んでいて。

山岸 (笑) 知らなかった。

——大泉時代は2年くらいだから、4分の1くらいだったということですね(笑)。

萩尾 その後、山岸さんともお互いに行き来して、手伝ったり。ベタ塗ったりとか。もうすごい貴重ですけど、山岸先生に描いて頂いたドレスとかあるんですよ。

山岸 覚えてます、恥ずかしくて。「この黒いドレスの、このところに陰影を付けたいの、なんか素敵に付けたいの」って萩尾さんが言ったんですよ。でも、私ったらものすごく汚いかケアミをやってしまった。



人の作品は全然手伝えないですよ、私ほんとにテクニクがなくて。

萩尾 いやいや、そんなことはないです。

山岸 その点すごいですよ、萩尾さんは、「アラベスク」の表紙の後ろの背景を全部描いて頂いたことがあるの、綺麗に綺麗に。バックのネヴァア河を挟んだ向こうの市街地を。あなたがね、「建物描きたいの」とか言ってる。ノンナとユーリがいて、その後ろに。

萩尾 そちらはあまり記憶にないけど……。あ、だんだん、思い出してきた。私が覚えてるのは「雨とコスモス」を手伝いに行って、色々描かせて頂いた記憶が。最初のお手伝いだったの、これは覚えてます。初めてのお使いみたい？

山岸 あー、絶版になっている作品です。内容が恥ずかしくてもう全然復刻してないんですけど……。手伝って頂いてたんですけ。じゃあ、もう一度見てみなくて。

——萩尾先生がお手伝いなさったのはわかったのに、山岸先生のがわからないのは寂しいですね。

山岸 わからないままできてほしいです。

萩尾 顔が山岸先生の顔になってるから、可愛い顔を探せば。

——もう少しヒントを(笑)。

萩尾 私が印象深く覚えているのは、「メリーベルと銀のぼら」をお手伝いして頂いたことだったんだけど。井草にいた頃ですね。

山岸 そうでした？ そんなおこがましいことやってるのだからか、私(笑)。

萩尾 とんでもない。素敵な、センスのあるドレスを描いて頂きました。

——最初にお話しされた内容など、覚えてらっしゃいますか？

萩尾 山岸先生が素敵だったという印象は覚えているのだけど。

山岸 最初は、竹宮恵子さん(※4)を訪ねて行っただんです。そのときは萩尾望都さんというすごい人がいることを知らずにいてですね、それで行ったら、なんかとんでもない人がいたという感じで(笑)。

萩尾 そんなことないですよ(笑)。ただの、田舎の人です。

山岸 やつぱりすごかったですよ。——それで2回目には迷われたんですか、ひとりで行って。

山岸 私、方向音痴で、一度は行っただけで行けるものと思っていいたら、「あれ？ 全然わからない」と思って。駅から大分歩いていっただけでわからなくて、当時は公衆電話ですから、電話して聞かれない？ でも行く道がない。すごく試行錯誤して、悪くなって思ってた掛ける、そうするとまた、説明される。

「そうですか」って受話器を置いてまた……。

萩尾 ささやさんが説明してたの？

山岸 違うの。サロンの誰か、いっぱいいた中のひとりが。

萩尾 サロンなんてものじゃあ……(笑)。下宿の誰かが(笑)。

山岸 私にはそう見えただんですよ、いつもスゴイ人たちがいっぱいいて、ついに3回目を掛けたら、「いま迎えの人を出します」って。そうしたら、家と家の隙間から人間が。「なんでですかこは、ここを通りだなんて私に言わないでください」と思いました(笑)。

萩尾 ああ、畑道だったのよね。山岸 そう、そうなんです。畑を突っ切るための、家と家の隙間の道。しかも木が立っててですね、その隙間の枝のところから、人が。そんなところに道があったなんて気がなくて。

城(城童子、萩尾マネージャー)よく覚えてますねえ(笑)。

——それは萩尾さんが何を描いていた頃でしょうか。

山岸 最初ささやさんで行ったときは「かわいそうなママ」を描かっていた頃です。本をもらって帰ったので。「これが出たばかりの本よ」というので、喜んで持って帰りました。

——1971年ですね。

城 あれ、「母の日特集」に掲載されたんです。それでお母さんを殺しちゃう男の子の話。なんと恐ろしい作家だと思いましたよね(笑)。

萩尾 あれは1年くらい前に描いたのを、小学館が買ってくれて載せてくれたの。

山岸 帰宅すると私が読むより先に、妹が読んだのですよ。それで「こ

の人のが好きーっ」と言ったのを見たら、「かわいいそうなママ」だったんです。「ええーっ！私いまこの人に会ってきたのよ」って。それで読んで、もうびっくりしました。だから萩尾作品は妹が先に見つけたんです(笑)。

——じゃあ「かわいいそうなママ」が最初の萩尾マンガ体験なんですね？  
山岸 そうです。

——萩尾さんは、最初に読んだ山岸作品は？

萩尾 「りぼんコミック」時代は、ずっと読んでいたのですよ。愛読者で。最初という「レフトアンドライト」です。でも、あとで気が付いたの。単行本に載ってるのを見て、「あれ？前読んだなあ」って。なんか、「春には青い芽が……」が初めて読んだ山岸作品だと、ずっと勘違いしていました。「りぼんコミック」から、「りぼん」に移られたでしょう？「りぼんコミック」が廃刊になってしまっただけで、「りぼん」に移られたあととして、絵が変わって、初めに描かれたのが——ええと、あれは……あ、記憶が。「雨とコスモ

ス」のちよっと前からいなんですよ。ええと、バスに乗り遅れないように、なんとかかんとかするとうう、「りぼん」に移ってすぐの連載を描いてらした。3回か4回連載の学園もの。

山岸 「ハロー・エプリボディ」？

萩尾 あ、そうかな。そこまではまだ可愛い絵柄で。

山岸 そうそう。

萩尾 「雨とコスモス」でがらっと絵柄が変わった。

山岸 変えた(笑)。「野獣のような顔」って、非常に不評で(笑)。

萩尾 そのとき初めて、アシスタントに行ったら、山岸さんが「多分これで読者が、汐が引くように引いていくだろう」って、言っていました(笑)。

山岸 言っていました？うー、わかってたんだ。

萩尾 元々こういうった絵柄のものを描いていただけで、可愛い絵柄でデビューした理由とか、それからいまこの絵柄に戻した理由とか、随分聞いて。

——どんなお話ですか。

萩尾 いいんでしょうか、言っちゃっても。

山岸 わかんない、どんなでしたっけ(笑)。

萩尾 可愛い丸顔じゃないと、編集さんは絶対OKじゃなくて。いま現在はずっと顔が長くても構わないけど、当時はとにかく、男の子も女の子も丸い顔でっていう感じだったので。なので、「どうしてもデビューしたいんだったら、丸い顔で」って言われて、それならもう、その覚悟で、丸い顔で始められた。だから、元々本来の絵柄はあの長い顔のほうで、それで戻したんだって。

山岸 非常に不評だったです。  
萩尾 でも「アラバスク」には似合った絵柄でしたな。ノンナは可愛いし、ミロノフ先生はかっこいいし、違和感なかったんですけど？

山岸 不評だったんで、ここまで野獣にしていけないと。少しは手心を加えましたけど、結局元の絵に戻しました(笑)。「雨とコスモス」は、ちよっと鼻の横に影を描きすぎたんですけど、それが嫌がられてしまいました。

——じゃあ、少女マンガとその野獣のような絵柄とが融合した形で「アラバスク」を描いたらうまくいったのですね。

萩尾 すごく新鮮でした。あの、「春には青い芽が……」というのはすごく覚えてるんです。印象深い作品でしたから。

山岸 ええっ(笑)？作者より覚えてるかもしれない、私が忘れ去った作品を。

——どんな印象でしたか？

萩尾 人間心理を深く描いてあるなって、夢中でくりかえし読んでいましたよ。心理を突き詰めて、わりと深いところまで持っていくっていう作品は、ちよっと珍しかった。  
山岸 ありがとうございます。萩尾さんにそんなふうに言うて頂けるなんて。

萩尾 あの、私、手塚先生の作品に接したときも、人間心理をここまで描けるんだ、って思ったし、山岸先生の作品を読んだときも、人間心理をここまで描けるんだ、って……。ちよっと、山岸節をぶちます。すみません、もう、山岸さんのすごいと

ころは作品が常に時代をリードしてきたということ、それから、新しい上に、独自の心理世界というものが先駆けて表現してこられた。どの作品にも、目から鱗が落ちるようなハッと気付かされる深い重い視点があって、少女マンガで、ここまで追求できる、枠に収まりきれない仕事をしてくられた。昔から、そしていまも。すごいです。

山岸 ええー、それはあなた！ 萩尾さんはそんなこと意識しなくても、とっくにそこまで描いていましたよ。

萩尾 は？ そんな。  
城 お母さん殺したりとか。

一同 (笑)

山岸 でもこのところ母性本能が活性化してませんか？

萩尾 母性本能なのかな……。

山岸 「春の小川」の前に、やはり「柳の木」です……。

萩尾 幽霊がしよっちゅう川のそばにいますしシリーズ。

山岸 この幽霊のお母さんは何だろ、と思っただけです。2作に登場するお母さんに

は、モデルがいるんですけれども、同じ人じゃないです。

山岸 ああ、そうなんだ。

萩尾 「柳の木」は、知り合いの青年がいるんですけど、お母さんがはやくに病気で亡くなったんですね。お母さんがずっと入院して、お母さん自身も苦しいものだから最期に関係がうまくつくれなくて、もう大人になったんだけど、ずっとお母さんのことをうらんでらっしゃる。それでお母さんも彼もかわいそうだなって思っただけで、和解する話。

山岸 それは良いことを。  
萩尾 実は、私はマンガを描くときに、こんなふうな現実をひきずるような作品はなるべく避けて避けてきたんです。なるべくファンタジーのほうに……。

山岸 いえいえ、ただのファンタジーではありませんでしたよ。  
萩尾 でも、あるときから地道な話のほうにだんだん、自分では絶対歌わなかった演歌調になって(笑)。やっぱり、年をとると演歌に戻ると(笑)。

——演歌ですか(笑)。

山岸 ……私なんか、「春の小川」の主人公の男の子が「ぼくはもう落ち着いた。お母さんはぼくを捨てたんだ」つとところでもうわあわあって

いう感じで。いやあ、そんなふうな子どもが受けとるなんてかわいそう。いやーあれは本当泣きました。「萩尾さん、このところ母性本能がすごいぞ」とか思いながら読んでたんですよ。

萩尾 そうか、母性本能だったのか。子どもは猫ぐらいしかいないのに。本能が出るのねえ。

山岸 「イグアナの娘」からはお母様との葛藤みたいなものがぱっと表面に出ましたよね。

萩尾 あ、そうですよね、何か距離を置いて描けるようになったっていう感じで。

山岸 それで最近の作品は、お父さんお母さん役の人がいい役で。

萩尾 そう、大人にも理由がある(笑)。

山岸 そういえば「バルバラ異界」や「シリーズ」ここではないですか、などのお父さんは、あなただってい

う気がしたんだけれど。

萩尾 ええ？

山岸 一所懸命、一族の色んな関係をはきずりながらがんばっているお父さんって、あれどうも、萩尾さんのような気がする。どう？ ご自身は父性の役割をしているのかなと思っただけ……。

萩尾 ああ、どうだろう……？ 考えながらまた読んでみます。でも、近いかも。

山岸 (笑)。現実の役回りは父性かなという気がするけど、でも描かれている作品の中では最近、母性も出てきているから……。でも私もそのあたりをまだ整理できてませんが。

萩尾 いやでもなんか、ねえ、作品について言ってもらうのは嬉しいけれど、すごい恥ずかしい(笑)。

あ、山岸先生には、私、すごく助けられた言葉があるんです。いまはもう、開き直ってマイペースで描いてるんですが、昔は周期的に自信喪失して、暗いし、地味だし、人気ないし、こんな描いていいんだろ

うかって、落ち込んだりしていたんですよ。20代の頃は、よく。

で、なんか、暗い作家は業界ではどうしたらいいか? という創作の一般論の話をしていたとき、すごく励まして頂いたの。暗くても、それでもいいのだ、って。長く残るものを、描けばいいのだ、って。山岸さんは、一般論として話してらしたと思うんだけど、私は、すごく、励まされた気になって。そのあとも、落ち込んだりしたとき、あんなすごい山岸さんが「それでいいのだ」って言ったんだから。赤塚不二夫じゃあないんですけど、安心して。やはり、おっしゃる言葉にも力があるんですよ。感謝です。

## 怖いお話と予知夢

—— おふたりだけでお話をされるのって。

山岸 久しぶり、しかも作品についてなんて全然。

萩尾 今回初めてぐらいいじやないかな。アシスタントに行ったときはなんかね、怖い話とか……。

山岸 怖い話はいまだにしますよ。やっぱり疲れたときそういうのが

一番、人様の目をカッと光らせるといなるね。

—— なるほど。

山岸 怖いといえは、私、最初に幽霊を見たのは長崎なんです。でもその夜の前に、昼間に長崎原爆館に行ってるんです。アシスタントさんたちと行っただけですね。それで1階とかが見てたんですけど、そのうちアシさんたちと離れちゃったんです。それで4階まで上がったら誰もその階にいないで、私ひとりだけだったんですよ。で、行ったら、4階に、声が入ってて。「うー」とか「あー」とかいう声がずーっと。私はそれをね、資料館によくある再現の効果音だと思って。やな声入れるなーと思いつつ、真っ黒に焦ったお弁当箱とかを、ずっと見たの。

で、気が付いたらアシさんたちが追いついてきて、「あ、先生ここにいたんですね」って。で、そこから先はしゃべってたから声のことは気にならなくなつて。戻ってから、「あそこ効果音入れてほしくないよね」と言ったら、みんな「そんなの入ってなかった」って言うんです。

—— 怖い……。

山岸 人と話したら聞こえなくなるぐらいの小さい音だったから、「あなたたち気付かなかっただけじゃないの」って言ったの。でも何年か経って長崎出身の方に聞いても「入ってない」って。で、あとからゾーっと。その日の夜なんです。アシスタントさんのおうちの温泉に泊めてもらったときに、幽霊を見たんです。

萩尾 あ、有名な手ぬぐいの、「ゆうれい談」に出てくる。

山岸 そうなんです。いま振り返ってみると、あの日の昼間、長崎原爆館であの声聞いていたな……と。

萩尾 どこかにつながるチャネルがずーっと開いてたのかも。

山岸 あの当時は開いてましたね。

いまは全然なくなつて嬉しくて(笑)。広島原爆記念館は何年も経ってから行って、長崎みたいな目に遭ったらどうしよう、ときどきしたけど、全然大丈夫でした。

—— 萩尾先生はそうした霊的な体験は何かありますか?

萩尾 ちょっと予知夢みたいなもの

は時々前にありました。以前私、ソ連時代のロシアで交通事故に遭ったんだけど、旅行に行く前に日本ですごくりアルな夢を3回見て。それが全部怪我する夢だった。

—— 大変な事故だったと聞きました。

萩尾 そう。すごい鮮明だったの、覚えてて。やだな気持ち悪いなと思って。こういう夢って正夢にならないように人に話しちゃおうって思つて、で、色んな人に話したんですよ。山岸さんにも話して、それたら、「全部頭が関係あるね」って言われたの。

山岸 えっ、どんな夢でした? ごめん。

萩尾 まずはどこか西洋のホテルにいたら、いきなり部屋に人が入ってきて言われたんですよ。「あなたはこのから怪我をしますよ」って。「え、嘘!」って言ってトイレに行つて鏡を見たら頭が血まみれだった。

—— わ!。

萩尾 それからもうひとつは、歩いてたらむこうから雪だるまがごろごろくる音がしてきて、頭にど



「いんとぶつかって倒れたんです。もうひとつはね、ずっと前に亡くなった人の写真が出てきたっていうんで見せてもらったんだけど、えー下手な人が撮ったのね、っていう写真で。だって顔の上半分がないの。そして、裏をめくったら文字が4つ書いてあって。詳しくは覚えてないんだけど、発見の「発見」の上のほうだけの字(次)が4つ並んでるんです。そしたら山岸さんが、その冠の字っていうのは、なにか宗教に関係のある文字だっていう話をちよつと読んだと。」

山岸 えー！どうしてそんな大事なことを、私は無責任に忘れてるの？

一同 (笑)。

萩尾 その後、ソ連に行つて交通事故故に遭いました。そして、頭を打つて怪我をしました。足も右膝を骨折、左足を8針ぬいました。城さんも足を大ケガして、出血多量で死にかけた。ポトキン病院に入院しました。

城 観光バスに乗るときにね、ずつとロシアに住んでた人が、「皆さん

には関係ないけど、ロシアで入院したらこうなりますよ」って話を行きかけにして。役に立った(笑)。

萩尾 「所持品は一切取られるけど、帰るとき返してくれます。お金は一切いりません。共産国だから」とか。その1時間ぐらいあと、交通事故に遭つて。

城 私は全部取られるつてわかつてたからメモとペンだけ持つて、ずつと日記書いてた。

——ふたりが戻つてきて、元気でいて、お話ができていてよかつた。

萩尾 日本に2週間後に帰つてきて、順天堂病院でまたレントゲン撮つて診てもらつたんです。そしたらね、順天堂のお医者さんが、「麥だなあ」つて。頭蓋骨が骨折してたんですね。「普通ここが骨折するとね、脳がぐちゃぐちゃになるんだけどね」つて。

山岸 やつぱり萩尾さんには守護霊がいますね。  
萩尾 頭をぶつけて明るくなりました。くよくよするのやめようつて。ふふふ。

## 「アラベスク」と「ポーの一族」

——ではお互いの代表作についてどう思われているかをお聞かせください。

萩尾 「アラベスク」はね、すごいショックでした。バレエものというのは少女マンガの定番みたいなところがあつて、好きだったしよく読んでいたんですが、マンガを読んでバレエ習い始めた子どももいっぱいいると思うんですけど、でもあのとき、ばたつと途絶えてたんですよね、バレエものマンガが。

山岸 そうそう、あの頃はなかつたんですよ。

萩尾 それで山岸先生が「アラベスク」を始めたときに、途絶えているのにまたやるのになつて思つたら、これがねえ、もう本格バレエもの。フランス語、イギリス語、ロシア語とかがいっぱい出てくるし。もうねえ、なんか言葉だけでもすごく参っちゃいました。グラン・ジュテ・アン・トゥールナンとか、うん(笑)。

山岸 ありがとうございます。それなのに私は、言うのと恥ずかしいんですけど……「ポーの一族」は怖くて読めなかつたんです。自分のことを弱いなあと思うんですけど……。もう見た感じで「すごいな」っていうのがわかるわけ。そうするとね、怖くて読めなくて……。

——それはどういう怖さですか？

山岸 私ね、ポーの世界をね、別の世界だちよつと勘違いしてましたね。えーと……B.Lの世界なのかと思つて……。

萩尾 ポーイズラブ？

——いまで言うところの？

山岸 そう、その世界をあなたが描くというショックでね。それがもう怖くてね、「この人にこれやられたらもうダメだ」と、怖くて怖くて読んでなくて。それで何年も経つてか



『アラベスク』完全版  
メディアファクトリー  
第1部全2巻/第2部全2巻



『ボーの一族』  
小学館フラワーコミックス  
ベシヤル、全2巻

ら「ボーの一族」ってそつだよね」とアシさんに話したら、「先生それ全然違う世界ですよ。そういう部分もあるかもしれないけど全然違うって、「ええ？」と。でもでも、いまだに怖くて見れない、そういう意味では私は弱いんです。ほんとに……。いまなら読めるかしら。ときどき。

——いまなら大丈夫と思います。  
城 シスコンの話(笑)。

萩尾 プラコン、シスコンの話です。私が誰のマンガでも読むのは根がミーハーだからなんです。山岸先生は、もつと、人生かけてまじめに読まれるから。

——じゃあ読まれた作品の中で、これはほんとに好きだったっていうのは。山岸 ですから、萩尾先生の作品は、怖くて、正直、ずつと読んでな

かったんですよ。

——どういった怖さなんでしょう？  
山岸 ……いや……それはあまりの才能だから。

——打ちのめされるのが怖い。

山岸 それです！ある方がね、うちを訪ねてくるとずーつと彼女の作品を褒めまくるんですよ。

——ええっ？

山岸 それで、だんだん同じ作家として哀しくなってくるんですよ。いや、私はもう当然萩尾さんのすごさを知っていたから、ただでさえ怖くて読めないと思ってるのに、彼女が来てさらに……。

——あおるから。

萩尾 あおる、それは、初めて知りました。その方は共通の知人だったんですけど、私に対しては、山岸さんのことをずつと褒めていました。私も、山岸さんの作品が好きだから、ミーハー気分が盛り上がりつつ話してるうちはいいんだけど、そのうちお説教になったりしまして。「萩尾さん、なぜ、山岸涼子みたいに描かないの？」とか。描けるわけないじゃんか！私の作品に関して

は、批判的なことが多かったです。なんなんでしょうね、彼女は天然なところがあつたんで。

——思ったことを言っちゃうんでしょね、複雑ですね。

山岸 私はい最近、萩尾さんからそれを聞いたときには、びっくりしました。

### 萩尾さんサ・デ・イスト？

——「春の小川」とか最近作は読んでいらっしやるんですね。

山岸 そうです、最近のは。本が送られてくるようになったんですよ、それで読んだんです。「残酷な神が支配する」くらいから送られてくるようになって、読んでます。



『残酷な神が支配する』  
小学館文庫  
全10巻

——「残酷な神が支配する」が読めるのでしたら、「ボーの一族」は全

然読めますよ。どつちかというところ、あれがむしろBしですよ(笑)。

山岸 ああ、そうですね。

——「残酷な神が支配する」はどうでしたか？

萩尾 いやあ、ちよつと聞くのが怖い(笑)。すみません。

山岸 もちろんドキドキする話です。で、正直、「萩尾さんサ・デ・イスト？」とかつて思っちゃいました(笑)。

萩尾 あ、いじめるのが楽しくて。「次、どんなふうにいじめよう」って、考えながら描いて。

山岸 でしょうね。「ああ、きつとこれは萩尾さんのつてるな」と思いながら読んで(笑)。

——山岸先生はどうですか、怖い話を描くときは楽しいのでしょうか？

山岸 いや、私は実は怖がりなんです。だから「私はこんなに怖いんだけど読者はここまで怖がらないだろうな」と思いながら、描いてます。

——ええええ？  
山岸 私「汐の声」を描くときなん